

新たな王者が誕生した

第9回

かわさき

歴代最多の205チームが参加！

ロボット競技大会



ロボットアイデアコンテストの入賞作品も展示された

8月24日と25日、川崎市の川崎市産業振興会館において第9回かわさきロボット競技大会が開催された。夏のロボコンとしてすでに風物詩的存在になりつつあるかわさきロボコンだが、着実に歴史を重ねて今年で9年目を迎えた。昨年はロボフェスタのイベントのひとつとして別会場で開催されたため、産業振興会館での開催は2年ぶりになる。ちなみにこの夏は別ページでレポートしているROBO-ONEもここで開催されている。

毎回多くのエントリーを集めてにぎわうこのイベント、年々参加数が右肩上がりて推移してきたが、今年はいよいよ200チームを突破、計205チームが参加した（もともと160チームを募集というかたちにはなっているが、ここ数年は来る者は拒まずの精神で規定以上のエントリーを受け付けている）。突起ありのリング、歩行メカを持つロボット、学生と社会人の区分けを行わず同じ条件での対戦などの独自のコンセプトに加え、ラジコンベースのロボットであること、高額な優勝賞金や協賛企業が提供するユニークな賞品（炭酸飲料1年分なんてのも）手際の良い運営なども評価されていることだと思う。川崎市という自治体が積極的に関与していることも理由だろうが、今後も歴史あるロボコンに育てて欲しいところだ。

なお、かわさきロボット競技会とはバトルロボットトーナメントとロボットアイデアコンテストの2部門で構成されているが、ここではバトルロボットトーナメントにテーマを絞ってレポートする。

社会人の強豪が予選敗退

バトルロボットトーナメントは障害物を配した独自のリング内で歩行機構を持つロボット同士が格闘を行うバトルロボコン。主催者側が用意したギアボックスを使い、エントリーが工夫を凝らした歩行機構が参加ロボットの特徴でもある。要求されるのは障害物をモノともせず乗り越え、素早く移動できるスピードとトルクを備えたロボット。それでいて相手を押し込んだ

り、横転させる武器であるアームの構造や動きにもノウハウが必要だ。基本的にはプロが操作で操縦するが、今年は初めて自律型ロボットが参加した。といってもまだセンサレスでアクチュエータの出力をマイコンでコントロールするだけのロボットで、動きは緩慢だったが勇氣あるアプローチとして評価したい。

社会人と学生の区別なく闘うかわさきロボコンでは長く社会人チームが優秀な成績を残してきた。参加者の比率としては学



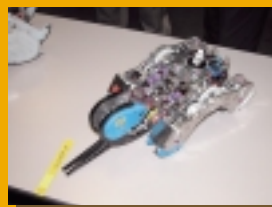
今年もこの独特のリングで熱い対戦が繰り広げられた。その試合数は200を軽く超えている。

決勝トーナメントに勝ち上がったロボットたち

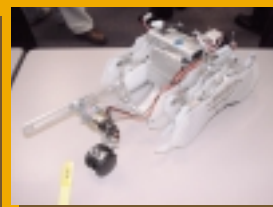
決勝トーナメントに勝ち上がったロボットたち



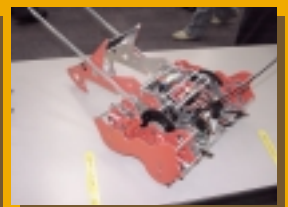
うみねこ



らんちゅう



EX



Minotaur